

「富士山」に関する、ここ数ヶ月間の新聞記事の中からピックアップしました。



富士宮市のホームページ「富士山写真」が人気  
1.11 静岡新聞朝刊

富士の山肌に「かぐや姫」?!  
1.25 静岡新聞朝刊

観光と環境どう調和?富士で懇話会  
1.26 静岡新聞朝刊

富士山をゴミから守れ「不法投棄一掃クリーン作戦」  
1.29 静岡新聞朝刊

環境保全活動に助成・1件20万円限度に新年度スタート  
2.6 静岡新聞朝刊

富士山のすそ野で300人が雪合戦  
2.12 毎日新聞朝刊

富士山ろく200キロ・10月に1周ウォーク開催  
2.25 中日新聞朝刊

富士山を生かした観光振興で山梨県と合同組織設立  
3.1 静岡新聞夕刊

2.15 静岡新聞 朝刊

**富士山トイレ改善へ当面对策**

**「スギチップ式」とし尿運び出し併用**

富士山の環境保全対策の一環としてトイレの改善費を検討している富士山トイレ研究会(委員長・岩堀恵祐氏)は十四日、今後のトイレ改善の方向性を盛り込んだ中間報告をまとめた。

研究会は十、十一の両年、し尿の運び出しの実証実験で、微生物の分解作用を利用したスギチップ式トイレや、ブルドーザーによるし尿処理施設への搬入・処理を行った。これらをも踏まえ、中間報告では、山ろくでのし尿処理施設への搬入・処理を中心とした処理システムを確立し、山腹への放流をやめることを目標に掲げ、当面の対策として、運び出しと、スギチップ式トイレの併用を打ち出した。

また、し尿の運び出しでは輸送の効率化、便槽の浸透防止対策とともに、地元自治体のし尿処理施設の確保や費用面の検討が必要とされている。

将来的には公衆トイレ、山腹トイレともに浄化設備を設けるなど処理の高度化を図っていく必要があるとして、固液分離処理、脱窒化、水洗化の開発やソーラー加熱など環境に優しいエネルギーの導入などを挙げている。

ハート面の取り組みと併せて、利用者のマナーや管理

体制の向上とともに、トイレの維持管理にかかると見られる改善計画を推進していく行政、地元、山腹業者、利用者らによる組織づくりなどが欠かせないとしている。研究会は十一年度以降、さらに二期間かけ、新たなし尿処理システムなどの検討を進めていく。

**研究会が中間報告**

3.1 静岡新聞 夕刊

**富士山との共通点探る**

**南極でコケ・藻類調査**

静岡大理学部 増沢武弘教授

多くデータ収集の構造や機能解明へ

南極大陸の氷床下に広がるコケや藻類の生態系は、富士山の山腹に広がるコケや藻類の生態系と共通点がある。静岡大理学部増沢武弘教授は、南極大陸の氷床下に広がるコケや藻類の生態系を調査し、富士山の山腹に広がるコケや藻類の生態系と共通点を探る。増沢教授は、南極大陸の氷床下に広がるコケや藻類の生態系を調査し、富士山の山腹に広がるコケや藻類の生態系と共通点を探る。

富士山にちなんだ「富士百人一首」出版  
3.3 静岡新聞朝刊

富士山トイレ研究会委員長・岩堀恵祐氏  
3.4 静岡新聞朝刊

富士宮西高ワングル部・富士山の体験一冊に  
3.5 朝日新聞朝刊

富士山レーダーの功績認定・米学会が記念プレート  
3.7 静岡新聞朝刊

狩野探幽の連作「富士十二景図」見つかる  
3.14 産経新聞朝刊